

今後の大会施設工事における安全衛生に係る課題と対応策について

発注者名 東京都

大会施設工事において今後想定される危険要因・安全衛生上の課題

- これから工事の完成に向けて、内装や設備工事等の進捗が本格的になっていく中、様々な種類の工事が錯綜するとともに労働者数の増加が見込まれ、現場内の作業環境の悪化が懸念される。また、工事量の増加に伴い過重労働への注意を要する。
- 外構工事の完了に向けて、建築工事の仮設資材撤去作業、土木工事の舗装等工事といった異業種の作業が隣接して行われる。
- 仮設オーバーレイ工事と現場内で隣接して作業を行う。
- 工事の終盤に向けて、外構整備に伴う掘削・工事用搬入経路等の変更、各設備の据付・設置に伴う関連工事の近接作業が行われる。
- 資機材運搬に伴う場内の通行、作業エリアの確保のため外構工事との調整が必要となる。

上記に対する発注者としての対応策

以下の取組により、課題への対応を図っている。

- 良好な作業環境や適正な安全設備の確保
 - ・ 監督員及び監理者による安全パトロールを実施
 - ・ 組織をあげた安全パトロールも定期的の実施
- 労務状況について法令順守の徹底
 - ・ 現場定例会（毎週）において、受注者からの報告を月一回、定期的に求める等
- 作業の安全性向上
 - ・ 発注者及び元請が参加する工程会議（毎週）にて、工事の進捗状況・課題等を共有
 - ・ 仮設オーバーレイ工事と連携して、発注者・元請・下請で作業内容等の打合せ（毎週）を実施
- 関係者への工事用搬入経路等の周知
- 外構整備等における掘削時の事前埋設位置等の確認
- 関連工事との綿密な調整
- 重機の安全操作徹底
 - ・ アウトリガー完全張出し
 - ・ ブーム直下立入禁止等

- 施工範囲の区画割の工夫及び隣接重機との接触注意の徹底
- 高所作業時における安全帯の使用の徹底
- 発注者と全事業者が参加する工程連絡会（毎週）にて、工事の進捗と予定、元請・各関係請負人の安全衛生対策について確認
- 場内の車両通行の注意及び安全通路の確保
- 作業周囲の確認、作業後の片づけの徹底

今後の大会施設工事における安全衛生に係る課題と対応策について

発注者名 公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
大会施設工事において今後想定される危険要因・安全衛生上の課題 ①運営用のプレハブ・テント、観客用座席、競技スペースなどの仮設インフラ整備に加え、運営に必要な設備機器の搬入や設置など様々な工事が予定され、異なる作業が隣接して行われる。(仮設オーバレイ整備工事全般) ②運営用のプレハブ・テントなどには、地面定着等の施工前に強風や突風により、飛ばされたり、倒れたりする恐れがある。(仮設オーバレイ整備工事全般) ③工事後半となり、移動足場を使用する外装工事等の広範囲の作業に加え、内装作業、配電作業といった作業内容、事業者が異なる作業が隣接して行われる。(有明体操競技場) ④隣接工事と工事工程や動線が重なる部分がある。(有明体操競技場) ⑤自転車競技 (BMX) レーシングコースやスケートボードの競技エリア整備における造成工事がある。(有明 BMX コース)
上記に対する発注者としての対応策 ・仮設インフラを整備する受注者に対して、様々な工事関係者が入場した際にも、事故を防止するための安全管理を統括して行っていただくとともに、必要に応じて指示を行う。(①) ・常に競技会場が位置する区域の気象情報等の情報収集を行い、気象警報又は注意報が発令され危険が予想される場合は、事故を防止するための安全対策について受注者と協議するようにする。(②) ・発注者として安全パトロール体制を整備。服装・保護具、作業環境等から、施工体制等の書類を現場で直接確認する。(①～⑤) ・事故等が発生した場合に、正確な情報を迅速に把握し、適切に対応するための連絡手順等を整備。組織委員会内の連絡体制を明確にし、報告書式を作成、再発防止策の確認体制についても整備する。(①～⑤) ・工事現場の全事業者が参加する定例打合せに発注者も参加し、安全衛生対策について確認する。(①～⑤) ・有明北施工者連絡会(事務局：東京都財務局)へ加入。各々の工事現場の発注者及び受注者間の連絡会。工事車両の通行等その他の工事間で影響を及ぼす事項について、情報を共有し調整を行っている。(④)

今後の大会施設工事における安全衛生に係る課題と対応策について

発注者名

独立行政法人 日本スポーツ振興センター

大会施設工事において今後想定される危険要因・安全衛生上の課題

- ・建物完成に向け様々な業種の作業員が入場し、異なる作業が近接して行われる。
- ・天井部分の各種工事の施工に伴い、高所作業による転落、墜落の危険性が伴う作業が行われる。
- ・スタンドにおいて屋根下部分への各種機器取付、下部では観客席取付作業が行われる。
- ・酸素欠乏症の危険性があるピット内作業が行われる。
- ・建物規模が大きく、本受電後、各エリアに順次送電する計画となっており、感電の危険性のある作業が行われる。
- ・足場解体等において、部材の飛来、落下等の危険性が伴う作業が行われる。
- ・建物周囲の外構工事において、転落・墜落の危険性が生じる掘削作業が行われる。
- ・敷地外周部において、第三者への被災の危険性が伴う仮囲い盛替え作業が行われる。

上記に対する発注者としての対応策

- ・発注者、施工者及び工事監理者の三者による現場内巡回を毎週実施し、工事の進捗とともに安全対策の実施状況等について確認を行っている。
- ・発注者、施工者及び工事監理者の三者による定例会議を毎週開催し、工事の進捗、工事予定、各種連絡事項等について確認を行っている。
- ・現場内で1回/月開催される災害防止協議会へ発注者の監督職員として参加し、月間工程、安全衛生、新規入場者教育等について確認を行っている。
- ・朝礼・KY活動へ発注者の監督職員として参加し、主要作業や危険作業、混在作業の状況などを確認している。
- ・発注者、施工者、別途工事業者が一同に会する「別途工事調整会議」を毎週開催し、工程調整、各種取り合い、安全対策などについての情報を共有化している。
- ・現場内に設置された健康相談室の利用状況について、施工者から毎月集計されたものの報告を受け、その利用状況を確認している。

今後の大会施設工事における安全衛生に係る課題と対応策について

発注者名 特定施設建築者（代表会社 三井不動産レジデンシャル 他10社）
大会施設工事において今後想定される危険要因・安全衛生上の課題 ①外構工事が本格化する状況において、外構造園作業と設備配管作業が輻輳して進捗するため、重機災害、転倒災害等の可能性が高まる。 ②外部足場解体工事等、高所作業が本格化する状況において、墜落災害、飛来落下災害などの可能性が高まる。 ③内装作業が本格化する状況において、立ち馬、脚立などの可搬性足場を多用することによる墜落災害や踏み外し災害等の可能性が高まる。
上記に対する発注者としての対応策 現在実施している以下①～⑤の対応につき、上記課題に注意を払いながら、今後も徹底していく。 ①各街区で実施される全事業者が参加する災害防止協議会に発注者も参加し、各施工者が適切に安全管理等について各作業員に周知を図っているかの確認を行う。 ②各街区で定期的に行われる現場定例会議（施工者参加）に参加し、施工者より安全対策が適切に実施されていることの報告を受け、不足があれば、指導を行う。 ③毎月1回現場パトロールを実施し、定められた仮設計画や安全対策が実施されているかの確認を行う。 ④毎月1回開催される総合定例（発注者、各街区の施工者・設計者・監理者が参加）に参加し、上記①～③について報告を行い、関係者間で共有を行う。 ⑤上記総合定例にて、発注者の代表会社より関係者に対し、上記④以外で共有すべき事項（交通ルール、周辺地域でのイベント開催、輻輳する他工事状況等）を報告する。